

第2期 国分寺市公民館運営審議会 平成29年度第3回定例会 要点記録

日 時 平成29年10月23日（月） 午後3時～5時

場 所 本多公民館 講座室

出席者

委員 佐藤（一）委員長・田中（英）副委員長・木下委員・佐藤（敏）委員・長谷部委員・高塚委員・萩原委員・戸澤委員・佐藤（洋）委員・松井委員・大内委員・田中（雅）委員

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・野中恋ヶ窪公民館長・加藤光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・山日本多公民館事業係長・木場本多公民館事業係

1 連絡事項

（1）配布資料確認

（2）第2回定例会要点記録確認⇒修正がある場合は、10月31日までに連絡をいただきたい。

2 報告事項

（1）平成29年国分寺市教育委員会第9回定例会について

事務局：資料1に基づき説明。

委員：国分寺市教育7 DAYSについて説明をお願いしたい。

事務局：教育委員会事務局と学校全体で開催している国分寺市教育7 DAYSの期間に、公民館でも何か企画ができないかと考え、今回は「平和講演会」と「並木芸術祭」を企画した。

委員：各館の運営サポート会議でもこの期間に合わせて何か取り組みができればと思う。

委員長：運営サポート会議の議題として取り上げることも大切だと思う。

（2）平成29年国分寺市議会第3回定例会について

事務局：資料2に基づき説明。今議会に補正予算をお願いした。自律型ソーラースタンドを設置し、スマートフォンなどが充電できるようにする。これは再生可能エネルギーの普及と災害時の活用を考えたものである。また、平成28年度決算の認定に関する決算特別委員会で、公民館について2点質問があった。一つは保育室の活用について、二つ目は公民館のあり方についてである。ご意見を踏まえ、今後運営サポート会議などで相談をしながら、事業を進めていきたい。各部屋の利用率だけでなく、講座などの事業参加者の男女別や年代別の利用率などについても集計し、事業に活かしていくべきという指摘をいただいた。アンケートや統計を確実に取るように取り組んでいきたい。

委員：全市民を対象とした、公民館の利用に関する調査は行っているか。

事務局：行っていない。

委員：サンプリング調査などを通して、公民館の利用状況がわかると良い。

委員：自立型ソーラースタンドは、市民と一緒に検討できれば良かった。

事務局：都の補助で行う事業であるため、短期間で決定することになり難しかった。

委員：市民参加を大事にし、できる限り運営サポート会議などに投げかけることを考えていただきたい。

事務局：そのように進めていくようにしたい。

3 協議事項

(1) 第1期公運審答申「地域づくりを目指した公民館のあり方」について

委員長：前回に引き続き、今後の審議のテーマを考えていくために、ご意見をいただきたい。

委員：社会教育委員の会議で、文化財施設と公民館・図書館について話し合いをしている。公民館運営審議会と双方で情報交換ができるといいと思う。学校との連携も今後さらに進めていきたい。

委員：子どもの居場所が少なくなっている。子どもの居場所として公民館が機能すれば良いが、目的がないと行かない場所とも感じる。子どもがホットできる居場所として理解してもらえると良い。

委員長：目的がないと利用できない施設という指摘は、その通りだと思う。

委員：学校や家庭で見せない自分でいられる場所が地域であったら良いのだが。子どもが自分で選び取れる場所が、地域の様々なところにあると良い。

委員：子どもと大人が顔見知りになる場を、公民館としてどのようにつくっていくかが大事。講座で子どもと大人と一緒に活動する。公民館が地域とのつながりをつくり、その中で子どもたちの居場所をつくっていく。

委員長：今後の審議のテーマについて、ご意見をいただきたい。

委員：未利用者をどう取り込むか考えたい。そのためには親しみやすく魅力ある講座づくりが大切。

委員長：未利用者の開拓というのは大きなテーマだと思う。

委員：社会教育を学ぶ拠点や機関としての公民館の役割について考えたい。

委員：答申の中身をどのように地域に広めていけるかを考えたい。例えば子どもたちにもわかりやすい形で答申を広報するなどが考えられる。住んでいる町の良さを子どもたちに伝えていきたい。

委員：地域に根付いた各公民館の特徴を大切にしてほしい。各公民館のこれまでの活動を知っている人たちを掘り起し、若い人たちに伝えていくことが大事だと考える。また、女性問題についても取り上げてほしい。公共である公民館だからこそできることがある。

委員：幅広い年代層が公民館を利用できる機会をつくるのが大切だと思う。お年寄りから子どもたちへ昔の遊びを伝えることを通し、若い世代の公民館の利用を増やす。また子育て中の人や勤労者に向けた講座などの試みをしてほし

い。市民を講師にすることで、地域で互いに知り合い、顔の見える関係をつくることができる。公民館と地域との連携については、公民館に市民が何を期待しているのかを整理することから始める必要がある。

委員長：新しい利用をいかに促すとかいうことだと思う。

委員：答申は、これまで公民館をすでに利用し活用している人の視点でできている。そこからは、利用者の高齢化、後継者がいなく活動が先細りになっているなどの課題がある。つまり、人の問題と講座の内容の問題だと思う。視点を変えて、公民館を利用していない人にどのようにアプローチしていくのかを考えたい。どのような講座があれば良いのか考える必要がある。

委員：社会が豊かになり、地域での過ごし方の選択肢が増えている。必ずしも公民館を利用するという選択肢ばかりではない。新しい公民館の在り方や発想があつたら良い。魅力があるというよりは、お得感があるといった視点が必要。

委員長：高齢者にとっては公民館が一種のお得感が感じられる場所になっている。例えば公民館に行けば話し相手がいる、仲間ができるといったことがある。

委員：自分がフルタイムで働いていた時は、公民館は全くと行っていいほど目に入らなかった。自分の世代はインターネットが当たり前の時代であり、わからないことはすぐに検索する。何か困ったことがあっても、皆で集まってわいわいがやがやと相談して解決するという形にはならない。逆に人と関わることの煩わしさや面倒臭さを感じる。しかし、それでも人とつながっていかなければ解決しないという問題が必ずある。これは実際に経験しなければわからないことである。公民館を利用していない人にインタビューなどで聞いてみるのはどうだろうか。

委員：テーマとしては居場所づくり、異世代交流、人材育成といったことがある。居場所づくりという点については、公民館は目的がないと行けない、誰でも立ち寄れる場所になっていないという問題がある。高齢者の中には、公民館は気楽におしゃべりをしに行く場所ではないと感じる人たちもいる。未利用者にとっては、公民館は勉強しに行くところ、何か目的がないと行けない場所という側面があると思う。だとすれば行ける条件をつくってしまうという手もある。気軽に立ち寄ったらこんなお得な情報があるなど、引きつけるものがあつたら良い。それをきっかけにして講座に参加するというステップに繋がるのではないか。人材育成については、地域デビューのきっかけに公民館がなるということがある。リタイアした男性にとって、まず手始めに行くところは図書館や公民館である。地域デビューの第一歩としての役割がある。

委員長：地域デビューというキーワードがでました。

委員：各委員の意見を見ると、一つは公民館に対して子どもと若者にいかに魅力やお得感を感じてもらおうかということ、二つ目は未利用者をどう引きつけるかということが出ていた。別な角度から述べると、今後、公民館事業や運営について、市民の手による企画が進んでいった場合、職員の役割とは何かということを考える必要性がでてくる。ゆくゆくは、職員は必要ないということ

になるのか、それとも職員にはもっと高度な別な役割が期待されていくのか。小金井市では、職員を中央館に集中させ、分館には事業の出前という形にする考え方がでてきている。つまり職員のスリム化という流れである。今後の審議のテーマとしては子どもの利用や未利用者の問題、さらに職員の役割の問題がある。もう一つ、公民館を拠点にしていろいろな団体が交流する中で、様々な気づきや意識の高まりがあると思う。公民館で学んだことが地域に活かされることがあるが、公民館の役割とその成果を見える化する必要がある。

副委員長：公民館と職員と公民館運営審議会との三位一体が、公民館の運営に大きく関わっている。今後もその体制に変化はない。そこで、運営サポート会議の位置づけについてももう少し明確にしなければならないと思う。運営サポート会議の役割について検討・研究していきたい。答申について運営サポート会議の委員の方に読んでもらい意見を出してもらおう。そこから新しい課題がでてくるのではないか。

委員長：建設的な意見が揃ったと思う。それぞれ独自に、地域での結びつきを活かしながら活動している運営サポート会議の役割は重要であり、要の存在である。これからどう進めていくかというところで、次回までに各館での話し合いを運営サポート会議で行ってほしい。答申の感想でも良いし、各地域での課題についてでも良い。公民館運営審議会で検討してほしいという投げかけでも良いので自由に意見を出したのを持ち寄ることとする。運営サポート会議での意見を中心に整理するという設定したい。

(2) 今後の審議の進め方について

委員長：今後、公民館を利用したことのない人が公民館をどう思っているのかについての聞き取りを、各委員が身近なところで行うこととしたい。公民館がどのようなであれば利用したいか、またお得感を感じてもらえるのか聞き取りをし、公民館を利用していない人に公民館利用のきっかけをどう広げるか、利用の広がりをつくるためにはどのようにすれば良いのかの議論をしていきたい。年度内にはテーマ設定し、4月から各論を進めていきたい。3月には管外研修を予定したい。

4 その他

事務局：東京都公民館研究大会を2月3日（土）に狛江市で開催する。課題別集会の一つを国分寺市が担当する。テーマは「公民館がまちを創る～公民館が生み出す『地域』～」である。

委員長：事例報告者について副委員長の田中英郎さんを推薦したい。（満場一致）

委員長：管内研修・管外研修について次回ご意見をいただきたい。

委員長：次回の日程は12月18日（月）午後3時から5時まで、本多公民館講座室で開催する。内容は運営サポート会議の意見と感想。終了後、懇親会を行う。以上で第3回定例会を終了する。